

ヒマワリ油完成

児童が瓶にラベル貼り

大館市釈迦内地区

地域を挙げてヒマワリの栽培に取り組んでいる大館市釈迦内地区で、ことしもヒマ

ワリ油が完成した。活動の中心となっていた釈迦内小学校(五十嵐経校長)で25日、6年生が瓶にラベルを貼って仕上げた。27、28の両日、大館樹海ドームで開かれる大館圏域産業祭などで販売する。

栽培2年目 産業祭で530本販売へ

商品名は昨年と同じ「釈迦食べてもらいたい。完売でき内向陽油」。この日、ラベルを貼ったのは全て同産業祭の販売用で、90ミリ入り200ミリ入りの大小5種類。200ミリ入り瓶には児童がデザインしたラベルを採用している。

児童はラベルが傾かないように注意しながら、一枚ずつ慎重に貼り付けた。産業祭では5種類合わせて2日間で530本を販売する予定。収益の一部は児童の宿泊研修の費用に充てる。

作業の後には油を塗ったトリストを試食した。石垣稜歩君(11)は「口の中に香ばしい味が広がっておいしい。活動に協力してくれた地域の人に

活動2年目のことはヒマワリの品種を昨年のハイブリッドサンフラワーから「春りん蔵」に変更した。悪玉コレステロール値を下げる効果があるとされるオレイン酸を多く含む油が採れる。事業主体の釈迦内サンフラワープロジェクト実行委員会(日景賢悟委員長)によると「味は昨年より若干マイルド」という。ことし収穫した種は約1・8トの種で目標の1・5トをクリアした。昨年(1・5ト)の1・5倍の2・25トに作付面積を拡大したほか「1戸1ひまわり運動」と銘打って釈



迦内地区内外の一般家庭に種を配布。栽培への協力を呼び掛けて増産を実現した。同運

ヒマワリ油の瓶にラベルを貼った釈迦内小の児童たち

動に協力した家庭のうち、400戸以上が25日までに同校へ種を届けた。

油は産業祭を皮切りに、地区の文化祭や大館市内のスーパーなどでも児童が販売する予定。実行委は小坂町の業者に依頼

(嶋崎宏樹)